



TITLE:

<学生の声> 「海外での研究経験」

AUTHOR(S):

長崎, 陽

CITATION:

長崎, 陽. <学生の声> 「海外での研究経験」. Cue 2015, 34: 61-61

ISSUE DATE:

2015-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/201392>

RIGHT:

学生の声

「海外での研究経験」

工学研究科 電気工学専攻 宇宙圏電波科学分野 博士後期課程3年 長 崎 陽

私は博士後期課程2年次に、JAXA および京都大学大学院工学研究科馬詰彰奨学寄附金の支援によって、NASA Ames 研究センターにて8ヶ月間研究インターンシップを行いました。Ames 研究センターはアメリカ航空宇宙局（NASA）の研究施設の一つであり、航空宇宙工学に限らず宇宙生物学、宇宙科学、理学、電気、情報工学など多様な分野における最先端の研究が行われています。私は専門とは異なる分野である宇宙生物学に関連した部局に所属し、NASA が計画する有人火星探査に向けたプロジェクトに関わっていました。

このような環境下で行う研究は、毎日が刺激的であると同時に自分の未熟さを感じる日々でした。一線で活躍する NASA の研究者との議論には付いていくのが大変で、自身の語学能力・処理能力が圧倒的に不足していることを痛感させられました。

参加していたインターンシップは研究以外にもプログラムが充実しており、SpaceX などの民間宇宙企業や、NASA の研究施設を見学するアメリカ宇宙産業ツアーをはじめ、NASA の権威や宇宙飛行士らと直接話す機会も与えられました。世界の宇宙開発の歴史を作ってきた偉人たちとの出会いは、研究者を志す自分にとって夢のような経験でした。

今回のインターンシップでは若いうちから海外で経験を積むことの大切さを身を持って感じました。語学能力をはじめとした自分自身の未熟さ、世界の研究情勢における現在の日本の立ち位置など、実際に海外に出て経験しなければわからないことが数多くあると感じました。少なくとも私にとって、このインターンシップに参加したことが自身の価値観や視野を変え、今後の人生の選択を変える経験となったことは間違いありません。読者の中に研究者を志す方がいれば（研究者に限りませんが）、ぜひ学生のうちから積極的に海外に出て経験を積んで欲しいと思います。

「海外派遣プログラムへの参加」

工学研究科 電子工学専攻 電子材料物性工学分野 博士後期課程3年 山 岸 裕 史

少し前になりますが、2014年の3月から4月にかけての約3週間、イギリスのオックスフォード大学への大学院生派遣プログラムに参加する機会に恵まれました。短期間だったこともあり、長期の研究留学とは異なった視点からではありますが、海外の学術・研究教育機関の環境や現地の人々の考え方を知る良い機会になりましたので少しだけ報告させて頂きたいと思います。

イギリスのオックスフォード大学とケンブリッジ大学には、大学独自のシステムとしてカレッジ制と呼ばれる制度があります。これは大学の学生と職員の多くが学部・学科以外にカレッジという寄宿舎のような施設に所属し、専攻・専門の異なる人々と共に生活するというものです。今回オックスフォード大学のカレッジの一つに滞在し、その雰囲気を感じることが出来ました。近年、分野横断的な研究の重要性が広く認知されていますが、前述の二大学ではカレッジ内の多様なバックグラウンドを持つ人達の交流によってそうした学際的研究の種となるアイデア・議論が生まれやすい環境が歴史的にも古くから育まれ、今に至るまで連綿と続いているのが印象的でした。

私が参加したプログラムは、京都大学のジョン万プログラムという海外派遣プログラムの中の一つで、派遣期間中は学内の他の部科の学生との交流の機会にも恵まれました。研究者志望の学生のみならず、多様な将来展望を持つ人達と交流することが出来ました。普段の研究室での研究環境はどうしても閉塞的になりがちな様に感じるのですが、異なる価値観を持った多くの人と接触することで、異なる視点を取り入れて自分の研究や価値観を客観的に見つめ直す機会にもなった様に思います。

最後になりましたが、プログラム参加に際してお世話になった国際交流センター国際学生交流課の方々、私の希望を聞き入れてプログラム参加をご了承下さった研究室の先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。